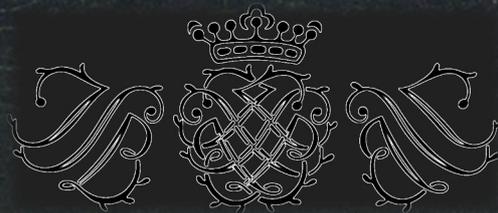


日本  
初演



ピカンダーの台本  
による

*J.S. Bach*

*Passionsoratorium*

《受難オラトリオ》

BWV Anh.169

1725年  
バッハは新天地ライブ  
ツィヒでの2年目になぜ  
新作を作曲せずに《ヨハ  
ネ受難曲第2稿》を演奏  
したのか？  
当初演奏するはずだった  
《受難オラトリオ》が存  
在したのではないか？

A.グリヒトリク

最新情報はこちらを  
ご覧ください。

お申し込みフォーム



Sunday, March 3, 2024 聖心女子大学 宮代ホール

東京都渋谷区広尾4-3-1 open 14:15 start 15:00 end 18:00

受講料 2,500円 全席自由 定員300名

この演奏会は、聖心女子大学キリスト教文化研究所の公開講座「宗教音楽・典礼音楽の世界II」の一環として行われるものです。宮代ホールでの講演会の後休憩を挟み、別棟の「聖堂」に移動していただき、そちらで演奏をお聴きいただきます。お申し込みいただいた順にお座席にご案内いたします。聖心女子大学の学生・教職員は受講料無料・要申込。コンサートのみのチケットは販売していません。お申し込みは右上のフォームから必要事項を記入しお申し込みいただくか、または「氏名ふりがな・電話番号・（無料受講者はご所属）」を明記の上、kococha.chor@gmail.com までメールにてお申込みください。

主催 山梨大学教育学域教授 片野耕喜

お問い合わせ [katano@yamanashi.ac.jp](mailto:katano@yamanashi.ac.jp)

共催 聖心女子大学キリスト教文化研究所

お問い合わせ [kiriken@u-sacred-heart.ac.jp](mailto:kiriken@u-sacred-heart.ac.jp)

助成： ドイツ連邦共和国大使館 ゲーテ・インスティトゥート 文化再生財団（ミュンヘン）  
山梨メセナ協会 青山音楽財団 チェンバロ振興財団クープラン 野村財団



**NOMURA 野村財団**

## J.S.バッハが「受難オラトリオ」を作曲していた!?

1725年に発表されたピカンダーのオラトリオ台本により、バッハが自由詩をテキストにもつ「受難オラトリオ」を作曲していたのではないかとアレクサンダー・グリヒトリク氏（ワイマール音楽大学）はバッハのパロディー手法を綿密に研究し、後の作品からテキストに合う曲を選び出し、補筆・再構成した作品を発表。2023年4月にフランクフルトで”初演”され、大きな話題をよびました。マタイ受難曲の原型がここにあったのではないかとこの作品は演奏されたのか？ その後どうなったのか？ など謎が多い作品で、興味は尽きません。

グリヒトリク氏が2024年2月に来日し、この作品の日本初演を指揮します。3月3日（日）は演奏に先立ってオラトリオについての説明、また作品の解説があり、休憩後に作品が演奏されます。

講師：A.グリヒトリク 加藤拓未（通訳） 片野耕喜（監修）

### 出演者

ソプラノ 高橋侑希（シオンの娘、マリア）

アルト 金成佳枝 久保田里奈

テノール 片野耕喜（福音書記者） 石川洋人（ヨハネ）

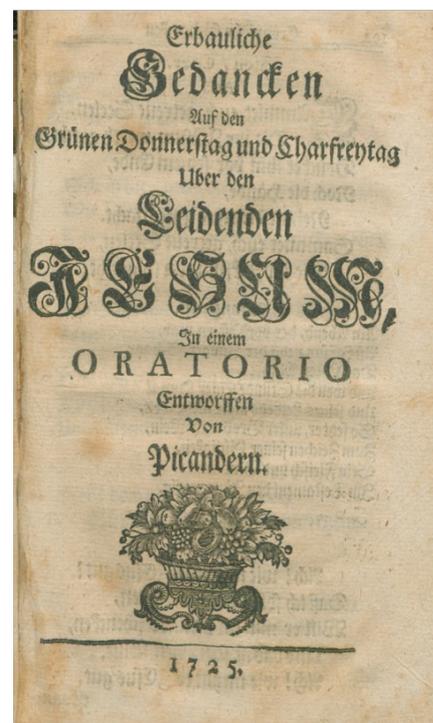
バス 奥村泰憲（ペトロ） 田代和久（イエス）

ガンバ 平尾雅子 オルガン 杉本周介 チェロ 諸岡範澄

バッハアカデミー・バロックオーケストラ

コンサートマスター 高橋真二

合唱団『甲府コレギウム・アウレウム』（合唱指揮：片野耕喜）



ピカンダーが出版した詩集。  
タイトルページ



指揮・チェンバロ Alexander Grychtolik  
アレクサンダー・グリヒトリク